転職～私の場合～

江別医師会　中里（なかざと）　京（たかし）

昨年４月、19年間営んだ診療所を畳みました。理由は多々ありますが、最大の理由は内科の無床診療所ではオンライン診療の需要が今後さらに増すだろうと考えたからです。すなわちオフィスを構え、スタッフを揃え、医療機器を揃え、患者様（因みに私はこの患者“様”という呼称に未だ違和感を覚えます、皆さんは如何ですか？）に「いらっしゃいませ」という従来のスタイルでは、今後ゲインが先細りするのは不可避だろうと。

ではどうすべきか？　今後は、フォーカスを院内から院外へとシフトさせる必要があると考えました。選択肢の一つとして訪問診療も検討しましたが、一人で24時間365日オンコール待機するのは私には無理な話で、スタッフを揃える大手に太刀打ちできないのは論をまたない。ましてや１年365日晩酌を欠かせず、不可逆性のアルコールハイマー脳症に侵された私には選択の余地はありませんでした。幸い既に初期投資は完済していたので派手な生活さえ求めなければ細々と診療を続けることはできました。

しかしながら建物のメンテナンス費や昨今の看護師不足は今後大きな足枷になるであろうし、診療報酬は今後下がることはあっても大幅に上がることはないでしょう。また医療機器は自分の開業当初よりも明らかにその保証期間が短縮され、矢継ぎ早に更新を余儀なくされます。これじゃあ廃業するまで延々とメーカーにお布施を強要されているようなもので、メーカーに踊らされているような感覚に陥り、妙にプライドの高い私はそれを看過できず結果、清水の舞台から飛び落ち（？）る思いで閉院に至りました。

悠々自適の生活を送れるほどの貯えもない私は早速医師求人サイト・・・。こんなもの、私の開業当初存在したかな？　連絡は全てメールで、担当者と会ったのは面接に同行した日が最初で最後・・・。時代は正にバーチャル！・・・に登録しリクルート活動を始めました。しかし60歳にもなると選択肢はそう多くはなく、慢性疾患患者を抱える病棟管理とか老健の施設長、最近ではギャラの高さからか訪問診療の人気が高いようです。私の希望は外来診療でしたが、外来のみの職場は思いの外需要がなく、ひたすら求人を待ちました。古女房から「そろそろ･･･」と言われた矢先のお盆前、大手社会医療法人の募集があり早速応募したところ幸運なことに即採用されました。

職場は地下鉄大通駅近くにあるクリニックの雇われ“部下無し”院長。勿論オンライン診療も準備万全です。患者さんの診療に追われるのは以前と同様ですが、なぜか何もかもが新鮮です。スタッフの年齢がかつての私の診療所より平均で10歳は若返ったからかも・・・。

今後は当法人のため結果（収益アップ）を出さなければ、いつ路頭に迷う羽目に陥るかわかりません。あと何年働かせてもらえるかわかりませんが医師人生の最後、スロットルペダルをもうひと踏みするか？　遅ればせながら北海道医師会会員の皆様にとりまして本年が幸多き一年となるよう祈願申し上げます。本年もよろしくお願い申し上げます。

本会では、例年新年号に「新春随想」を企画し、年男・年女に当たられます会員諸氏より無作為に選定させていただき、執筆をご依頼申し上げております。

時節がら、ご多忙にもかかわらず、ご寄稿いただき感謝申し上げます。

北海道医師会会員数は、男性7,083名･女性1,053名の合計8,136名（12月12日現在）。そのうち辰年生まれの会員は別表のとおりです。

◇情報広報部◇

（名）

	男性	女性	合計
36歳	27	8	35
48歳	99	22	121
60歳	219	30	249
72歳	179	8	187
84歳	56	2	58
96歳	8	7	15
合計	588	77	665